

おおらかな国 ベトナム

6月8日(土)別所公民館にて国際理解出前講座を開催し、9名が参加しました。



講師は、2018年から2年弱の間 JICA の海外派遣ボランティアとして、ベトナム中部にあるダナン市の外国語大学で日本語教育に携わっておられた、首藤美香さんです。

最初に、首藤さんから「ベトナムのイメージは？」と質問され、参加者の皆さんからは「美味しいもの」「勤勉」「向上心が高い」「真面目」など、様々な声が上がっていました。

1979年、姫路市にはベトナムなどから逃れて日本へやってきた難民が言葉や生活を学ぶ施設として、姫路定住促進センターが作られました。その後日本に定住した人たちが家族を呼び寄せたり、近年は技能実習生として来日したりするなど、姫路市には今もたくさんのベトナム人が暮らしていることが紹介されました。

講座では、発音記号が特徴的で難しいベトナム語を実際に発音してみました。ベトナムでは人間関係を大切に、上下関係で二人称「あなた」の呼び方が変わるため、出会ってすぐに年齢を尋ねられるそうです。日本では年齢を尋ねるのは失礼とも感じられますが、背景にはそんな理由があったことを知り、驚きがありました。他にも、中高生の制服や銀行でも着用されるベトナムの民族衣装「アオザイ」、ベトナム人の特徴を表す「6K」、8つの世界遺産、北部・中部・南部で異なる気候や人の気質、食文化や世界遺産まで、幅広く紹介していただきました。

参加者の皆さんは、美しい刺繍の入ったアオザイをまとい、体験を元に詳しいデータやクイズも交えながら興味深く楽しいお話をされる首藤さんに引き込まれ、熱心に聞き入っておられました。

令和4年12月時点で、兵庫県には26,023人、姫路市には4,133人のベトナム人が在住しています。身近なところからお互いの良いところを知り、分からない部分を解きほぐしていく機会として、たくさんの場所で出前講座を開催できればと思います。